



# どこでもミュージアム わくわくワークシート

白鹿記念酒造博物館

保護者・教員用

お酒づくりのはなし

## 「どこでもミュージアム わくわくワークシート」について

児童・生徒の皆さんがミュージアムに興味を持っていただくきっかけとして、阪神間にある美術館・博物館が連携し、各館の特色を活かしたワークシートをご用意しました。ご自宅や学校で、手軽に楽しみながら取り組んでいただき、魅力あふれる美術作品や心を動かす歴史資料等がたくさん集まるミュージアムを、より身近に感じてもらえればと思います。

### ワークシート「お酒づくりのはなし」の使い方（保護者・教員用）

このワークシートは、小学校3年生以上を対象としています。

阪神地域の産業である酒造業についての学びを通して、お近くの地域の文化や歴史の調べ学習へとつなげて頂ける内容となっています。是非お子さんと協力して取り組んでみてください。



北播磨地域  
お米（山田錦）



丹波地域  
お酒をつくる人  
（杜氏）



阪神地域 酒蔵



西宮市 お水（宮水）

表面 — お酒の材料である米と水、造り手である杜氏、酒を造る酒蔵の写真を兵庫県の地図上でご紹介しています。

裏面 — 問題に挑戦する前に、お子さんと一緒にそれぞれの項目についてインターネットや社会科の教科書などを使って調べてみてください。

#### お米

…… 北播磨地域の三木市・加東市等では、山の斜面を利用した棚田で米が作られています。山地の昼夜の寒暖差の大きさが、山田錦の生育には適しているため、酒米の栽培が盛んになっています。インターネットを使って、県内各地の田んぼの多い・少ない地域の違いを観察してみてください。

#### お水

…… 宮水とは西宮の一部地域でしか取水することができない酒造りに適した水で、江戸時代以来阪神地域の酒蔵で広く利用されています。現在でも西宮市では酒造会社と自治体を中心に宮水を守る活動が行われています。ご自宅の近くの名水等について調べてみてください。

#### 杜氏

…… 酒造りを行う人（杜氏）は全国各地にいますが、その中でも特に優秀とされるのが丹波の杜氏たちで、兵庫県のお酒を全国的に有名にしました。現在でもその流れが受け継がれています。

#### 酒蔵

…… 現在でも阪神地域には、日本を代表する酒造会社がいくつもあります。昔ながらの木造の酒蔵自体は阪神・淡路大震災で多くが倒壊してしまいました。それでも古い酒蔵は資料館等として利用されているので、一度訪れてみてはいかがでしょうか。

【表面】の内容を踏まえて、それぞれの項目について問題を出しています。ヒントを使いながら、お子さんと問題を考えて頂ければと思います。《解答例》の後に調べ学習のテーマのご提案もしておりますので、ご参考にしてください。

### お米の問題

…… 【表面】には山田錦の産地の写真を掲載しています。山田錦とは酒米の王様と称される米で、昭和11年（1936）に兵庫県で開発されました。山田錦は、一般に食べられる米の1.2~1.3倍（1000粒で約28g）の重さがある大粒米として知られています。酒造りに利用する段階で、米の周囲を削りとってしまうため、あらかじめ大粒のお米が利用されています。

**解答例** お米の粒の大きさが違う。色が違う。（真ん中が白く見えるのも特徴の1つです）

※ご家庭にある米粒1000粒の重さを測り、重さを比べることで（市販の白米で計算する際は、お米の重さ÷0.9にして精米で削られた分を補ってください）、お米についての調べ学習として夏休みの宿題等にもつなげることができると思います。

### お水の問題

…… 水には見た目ではわからない性質の違いがあります。これは、雨が降ってから海に注がれるまでに、水が通る地下の土の成分の違いによって生じます。宮水は、異なるルートを通る地下水が3つブレンドされることで生み出された、酒造りにとっては奇跡のお水です。

**解答例** 地下の水の通り道がいろいろあるから。水の通り道の土の性質に違いがあるから。

※宮水は大昔に海だった地層を通るため、その影響を受けています。ご自宅の近くの昔の地層を調べるきっかけにしてみてください。

### 杜氏の問題

…… 電車や自動車が無かった江戸時代、冬にお酒を造るため、秋になると杜氏たちは丹波から歩いて阪神地域の酒蔵へとやって来ていました。大人だけであれば、朝早くに出発して夜に到着するぐらいの距離でしたが、中には中学生ぐらいの年齢の子どもがいる場合があり、途中で宿泊して2日間かけてやってくることもありました。

※距離を決めて歩いてどのくらい時間がかかったのかを測り、杜氏たちが歩いた60kmを歩くとどのくらい時間がかかるのか計算してみましょう。そして、丹波から阪神地域までの地図を見てどのようなルートを歩いたかを確認してみてください。

### 酒蔵の問題

…… 明治時代ごろまでは、お酒は樽に入れられているのが一般的でした。酒樽には72ℓのお酒が入るので、樽の重さは90kg近くありました。このように重い酒樽を、年間約100万樽も江戸へ運ぶため、海から船に積んで江戸へ運んでいました。

**解答例** 酒を船で運ぶため、海に近い場所に酒蔵が集まっていた。

※現在お酒は世界の様々な地域に運ばれています。ご自宅の近くの地場製品が、どのような場所へ送られているのか調べてみてください。

公益財団法人

## 白鹿記念酒造博物館

〒662-0926 兵庫県西宮市鞍掛町8番21号

TEL:0798-33-0008

<https://www.hakushika.co.jp/museum/>

© hakushika\_sake\_museum

休館日:火曜日

（祝日の場合は翌日、連休の場合は連休明け休館）



### ご利用について

白鹿記念酒造博物館（酒ミュージアム）には、明治2年（1869）に建てられた酒蔵を利用した建物の中で酒造りの工程をご紹介する酒蔵館と、酒造家辰馬家が収集した美術品や西宮の酒造りの歴史を物語る歴史資料・桜博士で知られる笹部新太郎氏が集めたコレクションを紹介する記念館があります。歴史も美術も楽しめる酒ミュージアムへどうぞお越しください。